



<井草の自由って何かしらん?>

爆笑問題の余韻をどこかに感じながら、これを書いています。

私は YouTube で「太田上田」という番組をけっこう観ていて、太田さんの、やる気も才能もあるし、いろいろやっているのだけれど、思ったように結果が出ないどころか、逆の結果になったりして苦しんでいる(けど、そういう時に限って、やたら攻撃的になったりして、周りからその苦悩を理解してもらえない)不器用な人間性や(高校3年間、皆勤だったけど、一人も友達がいなかったという逸話は有名ですが、自分がそうだと考えると、何とも切ない話です)、あれだけ自由奔放に振る舞っているのに、事務所の社長である奥様には一切逆らえないという弱さや、なかなか分かってもらえない優しさなどが好きなので、本当に感慨深いひとときでした。

でも、学校を抜け出して遊びに行ってたという田中さんの話を聞くと、昔の井草はかなり自由だった(というか好き勝手に許された)のだなあと思えました。

今でも井草は制服がなく、髪も自由ですし、生徒手帳に載っている「生活規則」も、それほど厳しいことは書いてありません。なので、他の高校に比べると、だいぶ自由な感じがするわけですが、でも、だからといって何をしても良いというわけではありませんよね。例えば、誰かに暴力を振るったらダメですし、いじめをしてもダメですし、考査などで不正行為をしてもダメなわけです。一般的な社会通念に照らし合わせてダメなものは、井草でもやっぱりダメなわけです。

ウィキペディアで井草高校を調べてみると、「自主・自由・自律」が教育理念だと書いてあります。20 数年前に私が井草高校にいた時も、この3つの言葉はよく聞いたように思いますが、今年度の学校案内パンフレットの校長挨拶の部分には「自主・自律、そして自由への挑戦」と書かれています。自主性や自律性をしっかり養い・確立しながら、自分らしくいるための自由な心を獲得していこうということなのですが、「自由」の意味づけも、時とともに少しずつ変わってきているということなのでしょうね。

20 数年ぶりに井草高校の空気を吸って、井草高校の空気にうち満ちている「自分たちは自由なんだ」という喜びを伴った解放・開放感や、「自分は自由でいて良いのだ」という安心感をそこに感じて、この空気に漂っている自由感こそが「井草の自由」なのかもしれないと思えました。そして、空気に自由感が漂っているなんて、なんて素敵なことだろうと思いつつも、でも、もしかするとこれは諸刃の剣なのかもしれないと思ったのです。



交流分析という心理学の分野では、人の心は大きく「P: Parent」、「A: Adult」、「C: Child」の3つの部分からできていて、Pはさらに、寛容的・保護的なNP(Nurturing Parent)と、支配的・規範的なCP(Critical Parent)とに分かれ、Cも自由奔放なFC(Free Child)と、従順なAC(Adapted Child)とに分かれるとしていますが、井草の空気に漂っている自由感は、ともするとFCの部分を刺激して、井草の生徒(特に1年生)を子どもっぽくしているのではないかと感じたりするのです。



(子ども返りしたような)ちびっ子ギャング的な男子生徒が騒いでいるのを見たりすると、「中学生かよ!」とゲンナリしてしまうのですが、例えば、「やりたくはないけど、今はこれをすべきだ」と思う、「自律」に関係する心の働きはAの働きで、「やりたいものをやりたい!やりたくないものはやりたくない!」というのはFCの働きです。学校の勉強などは「やりたくなくてもやらなければいけない」ものですし、受験勉強などはその最たるものですので、FCが高すぎると、学習活動がうまくいかなくなるどころか、進路実現にも影響が出てしまうこととなります。FCに見合うように、Aもほど良く高めていくことが大切なのです。

では、どうやってAを高めていけば良いのかということになりますが、これはもう、少しずつ訓練していくしかありません。「訓練なんてやりたくない!」とFCはつぶやくでしょうが、やるべき勉強をサボれば成績が悪くなりますし、やるべきことを自分でやれなければ、誰かに怒られながらやることになるので、そんなイヤな目に遭うくらいなら自分の意思でやるしかないのだとFCに言い聞かせてやるしかありません。イヤだろうが何だろうが、やるべき勉強にコツコツ取り組む中で、Aは少しずつ高められていくのです。受験勉強は、そういったAを高める訓練の先にあるからこそ、しんどくてもやっていけるようになるのです。

世界には自由が許されない国があるように、自由とは、下手をすると奪われる可能性があるものです。それなのに、井草高校では今でも大切にされているのは、自由と同時に、昔から変わらずに語られている自主や自律という裏打ちがあるからこそです。「やるべき勉強は、自主的に、自律的にきちんとやっています。だから私たちのこの自由を大切にしてください」と胸張って言えてこそ、満点の井草生なのではないでしょうか?自主と自律がしっかりできている生徒が、自由感にあふれて、生き生きと輝くから、井草高校は素敵なのです。いつまでもお子様でいるのはやめましょう。やるべきことを、自主的、自律的にしっかりやるような心の働きをしっかり築いていきましょう。

●1年生・2年生の皆さん、自分が向き合うべきものに、しっかり向き合い、成長しましょう！

<1年生>

選択科目の本調査で、いよいよ文理選択の第一歩が決まりますね。入学以来、心おきなくのびのびと過ごしてきて、中には少し緩んでしまっている人もいるみたいですが、選択科目を決めるということは、人生の一つの方向性を決めてしまうことにもつながるので、自分の人生に対する責任感を持って決めていきましょう。

人生は「選択」の連続です。朝何時に起きるかとか、昼ご飯を誰と食べるかとか、日常生活の小さな決定も「選択」ですし、どこを受験するかとか、どの会社に入るかとか、誰と結婚するかとか、人生の節目にする大きな決意も「選択」です。そして、重要な「選択」場面で、正しい選択できるかどうかは、普段から「選択」をしっかり自分の意思でやっているかどうか、そういう「選択」の練習をしているかどうかで決まるのです。

皆さん、自分の頭でしっかり考え、自分の意思で選択科目を決めていますか？「友達と一緒にいいや」的な決め方をしてませんか？誰か任せの人生なんて、高校生になったらもう卒業しなくてははいけませんよ。ここで、覚悟を持って、しっかり「選択」することで、確実に一歩大人になっていきましょう。

<2年生>

沖縄は、今も昔も、自由や解放とはあまり縁のない場所のようです。私は歴史に疎いので、詳しくはないのですが、平和だったと言われる琉球時代は別として、薩摩藩の支配を受けるようになった江戸時代も、そして、琉球処分として、琉球王国が解体され、琉球藩として日本の一部に組み込まれ、廃藩置県で沖縄県へと変えられていった明治維新後も、自由で幸せな楽園とは言えなかったのではないかと思いますし、さらに、第二次大戦の沖縄戦という悲惨な悲劇を味わい、終戦後は日本の支配下から外れ、27年間もアメリカの支配下となり、日本に返還された1972年以降も基地がらみの問題で、たびたび苦汁をなめてきました。

働きの口が少なかったこともあって、高度成長期には、皆さんと同じような年頃の若者は、集団就職で沖縄を離れて、大勢本土へ渡ったと言います。「そのウタを聞けば、寿命が延びる」と言われた、沖縄のりんけんバンドのボーカルの上原知子さんは、「いままで最高に感動した歌声は、いどこが集団就職で本土へ向かうとき、おばあが歌ったときのものだ」と言っていました。どんな気持ちでおばあが歌を歌ったのか、想像しただけでも胸がいっぱいになります。

どうか、沖縄の美しく化粧を施された表面に惑わされずに、沖縄の空気の中に何が漂っているのか、しっかり感じてみてください。そうして、自分の視野を少しでも広げて、無事戻ってきて欲しいなと願っています。

●3年生の皆さん、プレ共通テストはしっかり活かしていきましょう？

河合塾の模試も、全統プレ共通テスト模試を残すのみとなりました。河合塾のサイトを見ると、「ズバリ！的中」というページがあります。これは、河合塾のテキストや河合塾の模試で出されている問題と同じ様な問題が、大学入試の問題として出題された！ということをもとめた（自慢している）ページなのですが、丸々同じではなくても、「同じ傾向」というものまで含めると、かなりの数の「的中」結果が載っています。

少し古い話ですが、2012年の7月に代ゼミが実施した「第1回京大入試プレ」の英語の問題で使われた英文が、翌年2月に実施された実際の京大の入試の英語の試験で、ほぼ同じ形で出題されただけでなく、設問の対象となった文章も同じだったという、的中どころか漏洩かと騒がれるほどの衝撃の出来事があった。受験業界も大騒ぎになったのですが、共通テストや大学の独自問題を模試で的中させるといことは、その予備校がいかに大学の入試問題を研究しているかというPRになるだけでなく、その模試が、単なる模試としての価値だけではなく、本番の問題を事前に体験できるという付加価値をも持ったものになるので、模試の人気を高めるためにも、河合塾は本気で共通テストの問題を的中させようと狙っています。ですので、プレ共通テストは、単なる力試しで終わらせてはダメです。「的中」しているかもしれないという視点で、傾向や問題の方向性なども分析してみましょう。せつかくのプレを100%活かさきらないともったいないですよ。

★不安とのつき合い方のヒント

ストレスなどの心理状態が、身体症状となって現れるケースはよくあります。不安などは特にそういう傾向があるかもしれません。大学受験など、人生で初めて体験する未来の出来事に対して不安を感じるのは、万人に共通の反応です。その反応とうまくつき合うヒントを紹介します。

まず、何か身体症状として出始めたら、それを自分の体に住みついていてる生き物だと考えて、名前をつけましょう。お腹がチクチクするなら「チクチクくん」とか、自分で「ピッタリ！」と思える名前をつけます。

次は生態観察です。その〇〇くんは、24時間365日活動しているわけではありません。活動する時としない時が必ずあるので、特に、どんな時に活動しないか、活動しない時に共通する状況を調べます。

生態が分かったら、なるべく〇〇くんが悪さをしないように、活動しない状況をつくるような工夫を研究します。例えば、冷たい飲み物はやめて、暖かいものを飲むようにするとか、お腹を優しく撫でながら深呼吸を3回するとか、多少試行錯誤が必要だとは思いますが、〇〇くんを手なづける方法を研究するのです。

あなたは全然悪くないのです。〇〇くんが困った生き物なだけです。だから、ちょっと知恵を絞って、〇〇くんを封じ込めてやりましょう！多少の試行錯誤があっても、きつとうまくいきます。ぜひお試しあれ。